

より充実した医療の提供をめざして

上野総合市民病院の展望

上野総合市民病院は、伊賀地域の医療を支える病院の一つとして医師確保や経営難の解消に取り組んでいます。三木院長が就任してから1年余りが過ぎ、1月には常勤の内科医が着任することが決まるなど、医療技術向

上野医師・看護師確保のためのさまざまな体制が整いつつあります。広報いが市では、上野総合市民病院の現状を皆さんにお知らせするため、院長をはじめ、現場の医師・看護師に話を聞きました。

地域の誇りとなる病院へ

院長 三木 誓雄

当病院では、現在、医師確保や医療技術の向上など、さまざまな課題に取り組んでいます。

伊賀地域の医療を守るとともに、全国から患者が集まる総合的ながんの診療センターへ向けた取り組みが始まっています。北海道から東京、名古屋、四国、九州などの病院と共同研究を進めており、人事交流を行うことで医師の質を高める試みも進行中です。

がん治療においては、転院をしなくても当病院だけですべての治療が受けられる「自己完結型の病院」をめざしています。

伊賀市健診センターで病気を予防し、できてしまったがんは、がん免疫栄養療法による診療や、内視鏡、腹腔鏡などを駆使した先進医療技術で治療を行います。この間も、できるだけ入院をせず、在宅のまま豊かな暮らしをしながら治療を続けることを目標としています。

常勤医の確保については、1月から内科の常勤医が着任しています。が、今春4月から7月にかけても、さらに常勤医の増員をめざしています。詳細が決定し次第、発表します。

内視鏡や最新鋭の手術機器を用い大きく切開しない

手術を行っています

外科医師 西川 隆太郎

当病院は早期の胃がんや大腸がんに対しては、お腹を大きく切開して行う従来のやり方ではなく、胃カメラや大腸ファイバーといった内視鏡や、腹腔鏡を用いることで、お腹をほとんど切らずに治療や手術を行っています。このため大きな傷が残ることもなく、術後の回復も早くなり

ます。

腹腔鏡手術を行うために、最新の高性能専用モニターや超音波凝固切開装置な

どの最新機器（写真）を用います。



取り揃えており、内視鏡手術の先駆けであるがん研有明病院で技術を学んだスタッフらが、手術に当たっています。

抗がん剤治療も最新のレジメン（がん治療の薬剤や期間、手順などを示した計画書）を中心に、多くのレジメンに対応できる体制を取っています。発症する頻度が高い胃や大腸のがんは、院内だけでほとんどの標準的治療を完結することができます。

進行した胃がんの場合は、現在、腹腔鏡の治療は研究段階にあるため、標準的な開腹手術を行っています。将来的には腹腔鏡で行う頻度が高くなると考えられ、当病院でも

積極的に行っていく方針です。

早期のがんは自覚症状がないことが多く、健診で見つけることがほとんどです。しかし、伊賀市には定期的な健診を受けていない人が多く早期の胃がんが見つかることは少ないのです。何らかの症状が出てがんが見つかったときには進行してしまっていることが多く、治療もより複雑なものになります。

早期のがんはほとんどの場合、手術のみで治すことができますから、ぜひ定期的に検査を受けてください。胃がんの場合、胃透視（バリウム）の検査よりも胃カメラでの検査の方が、小さながんも見落とさず発見できます。最新の経鼻（鼻から入れるタイプ）の内視鏡はそれほど苦しくありませんので、これまで受けたことのない人も、以前苦しい思いをした人も、積極的に受けていただきたいと思えます。

救急現場で思うこと

「かかりつけ医を持ちましょう」

看護師長 増田 あけ美

救急車で搬送された人から「実は1週間前から体調がおかしかった。」という言葉をお聞きすることがあります。また、明らかな軽症でも救急車を要請する人もいます。

医療従事者ならば軽症と判断できる場合でも、市民の皆さんにとって重症ではないかと不安に思い、助けを求められたりするのはないでしょうか。

そういうとき、普段からかかりつけ医を持つことによって、救急車を呼ぶ必要がある症状なのか、もう少し様子を見てもよいかを、かかりつけ医に相談することができます。また、救急搬送されたり、入院となったときは、かかりつけ医と病院で患者の情報を提供し合い、共有することができます。体調がおかしいと感じたら、まずは早めにお近くの医院で診察を受けていただきたいと思います。



「同居していない家族とも日ごろから連絡を取り合って」

急な場合に備えてほしい」

看護主任 中森 まゆみ

核家族が増え、高齢化によって高齢者だけの世帯が増える中、お年寄りが救急車で搬送されたときに、どのような病気でこの医師に診てもらっているのか、普段どんな薬を飲んでいのかということなどを、別に暮らす家族がまったく知らないことがよくあります。

入院が必要ではない場合でも、「不安で連れて帰れない」とおっしゃることもあります。

日ごろから連絡を取り合って健康状態を知っておくと、いざというときも安心して対応できるのではないのでしょうか。

また、普段通院している人や薬を服用している人は、健康保険証やお薬手帳、どんな治療を受けているのかを書いたメモなどをひとまとめにしておくと、いざというときに持ち出すのに都合がよく、搬送された病院も情報を得やすくなります。

「お知らせ」

○紹介状について

現在、ほかの医療機関の紹介状なしでも受診いただけます。

※神経内科・脳神経外科は紹介状が必要です。

※神経内科、腫瘍外来は完全予約制です。

○診療受付時間の変更

1月から、月々金曜日の総合診療科・肛門外科・内科の診療受付時間が午前8時30分～午後4時30分になりました。



【問い合わせ】

上野総合市民病院医療業務課

☎ 24・11111 FAX 24・2268

診療体制についても見直し、新たな電子カルテの導入を予定しています。これは完全クラウド型システム（情報をインターネット上に保存する方法）を採用するもので、災害などが起こって病院自体が機能しなくなっても、カルテを守ることができず。

また、看護師の不足を解消するため、医看護学実践教育センターを開設します。東京女子医科大学の名誉教授である小柳仁さんを講師に迎え、医学生・看護学生を対象とした講座を定期的に開催する予定です。

伊賀地域の医療の担い手であることを自覚し、地域医療再生のモデルとなるよう医療の充実と医師・看護師の確保に努めます。

地域の誇りとなる病院をめざして、市内外の病院と連携を取りながら職員一同たゆまぬ努力を続けてまいります。

